

伊丹福音ルーテル教会 待降節第四主日礼拝のしおり

2022 年 12 月 18 日

アドヴェント讃美歌 21.242 番

- 1 主を待ち望むアドヴェント、最初の蠟燭 灯そう 主が道を備えられた この時を守ろう
※ 主の民よ、喜べ 主は近い
- 2 主を待ち望むアドヴェント、第二の蠟燭灯そう 主がなされたその様に 互いに助けよう※
- 3 主を待ち望むアドヴェント、第三の蠟燭灯そう 主の恵み 照り輝き 暗闇を照らす ※
- 4 主を待ち望むアドヴェント、最後の蠟燭灯そう 主はこの世に来たり給う 心こめ歌おう※

招きのことば：詩編 84 編 2-8 節

万軍の主よ、あなたのいますところは どれほど愛されていることでしょう。

主の庭を慕って、わたしの魂は絶え入りそうです。

命の神に向かって、わたしの身も心も叫びます。

あなたの祭壇に、鳥はすみかを作り つばめは巣をかけて、雛を置いています。

万軍の主、わたしの王、わたしの神よ。いかに幸いなことでしょう

あなたの家に住むことができるならまして、あなたを賛美することができるなら。〔セラ

いかに幸いなことでしょう あなたによって勇気を出し 心に広い道を見ている人は。

嘆きの谷を通るときも、そこを泉とするでしょう。雨も降り、祝福で覆ってくれるでしょう。

彼らはいよいよ力を増して進み ついに、シオンで神にまみえるでしょう。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリアより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

クリスマスが近づいてきました。私たちの主イエス様の誕生をともにお祝いいたします。ヨセフのいなずけだったマリアが、神様の霊によってイエス様をみごもりました。ヨセフは身に覚えのない婚約者の妊娠の知らせを天使からきいて、このできごとの背後には神様のふかいみこころがあることを疑わずに、そして覚悟をもって、マリアをめとりました。クリスマスの背景には様々な人々の信仰の姿があります。私たちも今年、あなたからいただいた信仰によって、救い主イエス様のお誕生を祝うまことのクリスマスをお祝いできることを感謝をいたします。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐため、緊張感を保たなければなりません。その中でも全て御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々をお与えください。この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：ローマの信徒への手紙 1 章 1-7 節

キリスト・イエスの僕、神の福音のために選び出され、召されて使徒となったパウロから、—— この福音は、神が既に聖書の中で預言者を通して約束されたもので、御子に関するものです。御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、聖なる霊によれば、死者の中からの復活によって力ある神の子と定められたのです。この方が、わたしたちの主イエス・キリストです。わたしたちはこの方により、その御名を広めてすべての異邦人を信仰による従順へと導くために、恵みを受けて使徒とされました。この異邦人の中に、イエス・キリストのものとなるように召されたあなたがたもいるのです。—— 神に愛され、召されて聖なる者となったローマの人たち一同へ。わたしたちの父である神と主イエス・キリストからの恵みと平和が、あなたがたにあるように。

福音書朗読：マタイによる福音書 1 章 18-25 節

イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおり、妻を迎え入れ、男の子が生まれるまでマリアと関係することはなかった。そして、その子をイエスと名付けた。

讃美歌 102 番

- 1 諸人(もろびと)声上げ 喜びたたえよ 神の恵み この世に現れ
ダビデの村の いぶせき馬屋(うまや)に 清き御子は 生まれたもう
- 2 諸人声上げ 喜びたたえよ 天(あめ)の扉 今しも開かれ
尽きぬ恵みを 身に帯び給いて 清き御子は 生まれたもう
- 3 諸人声上げ 喜びたたえよ 死の恐れを 追いやり給いて
よきおとずれを あまねく伝(つと)うる 清き御子は 生まれたもう **アーメン**

説教：「神は我々とともにおられる」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

クリスマスが来週に近づきました。心待ちに待ちましょう。クリスマスはイエス・キリストの誕生を祝う日です。神様が罪深い私たちを見捨てず、また見放すことをせず、独り子のイエス様をお送りくださった日です。喜びの日ですね。イエス様のお名前は、インマヌエルと呼ばれるであろう、と今日開かれたマタイによる福音書に記されていました。ちょうど旧約聖書イザヤ書 7 章 14 節で預言されていたことが成就する、ということです。インマヌエルは、「神様は私たちと共にいる」という意味です。神様が共にいてくださったらうれしいですね。

今朝はクリスマスを迎えるにあたって、インマヌエル、つまり、神様が共にいてくださる、という約束に思いを集めてみましょう。神様が共にいてくださる、ということは言うまでもなくたいへんありがたいことです。困ったときにすぐに助けてくださるからです。しかし、どうでしょうか。人によっては神様がいつも共にいてくださるのにはある意味でめんどろに感じられる

かもしれません。確かに神様が共にいてくださるということは心強いことです。しかし寝ても覚めても共におられる、常にそばにいてくださっているということですから、少し行き過ぎの感じがして、気持ちに負担になると感じる方もいるかもしれません。そして、神様は常に私たちに働きかけておられるということですから、なおのこと、圧力を感じて、恐れや気遣いが心の負担になると反射的に感じる人がいるかもしれません。

また、神様が共にいてくださるにしては、私たちの毎日には苦しいこと、思いがけない悲しみ、どうにもならないことが起こります。神様が共にいてくださるとわかっている、それが自分の毎日に何の喜びも安心も生み出さない、と感じてしまうこともあり得ます。実はマタイによる福音書 1 章 18 節から記されているヨセフは突然の苦しみと葛藤に出会って困っています。婚約中の愛するマリアのことです。ヨセフはマリアの妊娠を知りました。婚約相手が自分の身に覚えのない赤ちゃんをみごもってしまったのです。それは絶望です。当時の婚約はいわば結婚と同じで、結婚後の子どもがふたりの子どもであることを確認できるための、一緒に住んではいない期間だったのです。マリアが自分を裏切った、そうでなかったら暴力的なできごとがあったのだろうか、とにかく幸せな結婚生活を心待ちにしていたヨセフの未来は突然崩れてしまいました。ヨセフは正しい人でしたので申命記 22 章 23 節など、旧約聖書の律法によると婚約中の間違いがあったばあい、男女ともに町の外で石打ちでの死刑となることを知っていました。ヨセフはどうしていいかとっさにはわかりませんでした。

ヨセフは一生懸命考えました。正しいことを貫きつつ、マリアが石打ちにならないように助かる道を探しました。その結果、自分が犠牲になる覚悟を決めました。マリアの妊娠を表ざたにしないで、マリアが裁かれないように守ります。そしてヨセフ自らが当時許されなかった婚約破棄をします。愛するマリアと別れてでも、マリアが傷つかないようにとマリアの苦しみを自分が負うことを考えました。

神様がともにいらっしゃってもこんなことが起こったのです。ヨセフの日常には神様が共にいてくださることは何の助けにもなりません。むしろ神様の律法はヨセフを正義とマリアへの愛情との苦しい決断を強いることでした。そこに神様のみ言葉が与えられます。神様は天使をヨセフに遣わして神様の御心を伝えました。今マリアに何が起こっていて、その目的は何か。そしてヨセフはどうしたらいいのか。神様はヨセフに言葉をもって示してくださいました。マリアは間違ったことをしていなかった。歴史の中で神様がご自分の民を罪から救うために、マリアは聖霊によって赤ちゃんを宿したのだ。だから私は何も恐れることなく、愛するマリアを迎え入れればよいのだ。それが正しいこと、そしてマリアを助けることだ、とわかりました。ヨセフはすっきりしました。神様の大きなご計画の中での自分の役割を自覚しました。翌朝ヨセフは起きてすぐに責任ある行動に移りました。妻マリアを疑うことなく迎え入れました。肉体関係は約束の男の子が生まれるまでは持たないで、罪から救う救い主が無事に生まれることを助けました。そして天使が告げた通り、イエスという名前を名付けました。名づけるという

ことは親としての使命です。ヨセフはマリアと共に責任をもってイエスを我が子として家庭で育てたのです。

イエス様のお誕生の前にこのような背景があったのですね。イエス様がお生まれになる 700 年も前に預言者イザヤが、おとめがみごもって男の子を産む、その名はインマヌエル、つまり神様が私たちと共にいてくださる、という意味の名前で呼ばれる、と予告していました。そのことがマリアに起こったのです。人々のために罪を十字架でかわりに担って死んで下さるには、イエス様はまことの人でなければなりません。そうでなければ代わりに罰せられることになりません。しかしイエス様ご自身は罪びとであっては十字架の死はご自分の罪の罰を受けただけですべての人の身代わりとはなりません。ですからイエス様はきよいまことの神様でなければなりません。イエス様は人の罪の赦しがたたく達成されるように、歴史の中でただおひとり、まことの神、そして同時にまことの人としてお生まれくださいました。マリアはその母として、聖霊によってイエス様を宿したのです。ダビデの家系に生まれているヨセフがその子をイエスと名付けて、マリアと共に育てたのです。

クリスマスは神様が私たちを罪から救い出すために、私たちにイエス様をお与えくださったこととお祝いします。しかし神様がなさったみわざをよく見ますと、歴史をかけた全人類の救いのご計画の実現のためにひとりのヨセフという青年の信仰が用いられています。ヨセフがそのとき、社会的な正しさとマリアを守る愛の両立を目指した精一杯の考えでマリアを密かに離縁していたら、救い主イエス様は生まれることはできなかったかもしれません。神様はそんなに大事な役割をヨセフに与えています。神様は、力強い御腕をもって人を立て、人を用い、神様の正しくて愛に満ちたみわざを成し遂げてくださいます。正しく優しいヨセフを選び、ヨセフにみ言葉を与えて、そのみ言葉を信頼して行動に移す信仰を与え、イエス様が生まれて立派に育つようにしてくださいました。

ヨセフの側から見ると、み使いによって神様がみ言葉を与えてくださったことがすべてを決定することでした。神様がともにいてくださる、というふんわりした安心感を超えて、神様からのみ言葉をいただいて、ヨセフは共にいてくださる神様がどのように生きてお働きになっているのかをはっきり知ることができ、信頼することができ、行動することができました。語られたみ言葉がヨセフの内に信仰を作り、ヨセフはくよくよ恐れず、そして迷わないで即座に、正しくかつ愛に満ちた神様のみわざに参加しました。

ヨセフは神様からみ言葉をもって語り掛けられるまではとても不安でした。苦しいできごとの中で精一杯の対応をしようとしたましたが、人生は絶望でした。神様が共にいてくださるということは、神様に叱られないようにしっかり歩まなければならないというプレッシャーでした。神様がいつも共におられるのなら、いつも監視されていて、人として恥ずかしくないように、注意されたり指導されたりしないように、何とかがんばって歩まなければならないという息苦しい思いです。けれども、神様がみ言葉をもって語り掛けられたときすべてが変わりました。

神様が共にいてくださることは恐ろしいこと、めんどうなことではなく、うれしいこと、慰めと励ましであることに変わりました。神様は人の罪を赦す救い主をお与えくださるのです。そしてそのために自分にも信頼されて大切な役割が託されているのです。共にいてくださる神様は私を責めたり監視したりするためではなく、私をゆたかに赦し、私を喜んでくださり、そして神様のお働きが進むように私を用いてくださるがどのように神様が共にいてくださる、インマヌエルという意味で覚えられるイエス様は、神様が私たちに聖書のみ言葉を通してお語りくださり、私たちの内にみ言葉に信頼する信仰をお作りくださって、私たちが自分の属するところと神様から与えられた役割を知って豊かな実を結ぶものに成長させてくださるお方であることを教えています。

皆さんにも毎週こうしてみ言葉が与えられています。神様から与えられるみ言葉が、あなたの人生を形作ります。イエス様によってあなたの罪はすべて赦され、神様の子どもとされます。自分の心に巣くっている自己中心やわがままな心は自分で正すことはできず、またそれには神様の正しい罰が伴います。私たちは深い悔い改めに導かれ、私たちのために十字架で死んでよみがえってくださったイエス様に目を向けて、洗礼にあずかります。洗礼にあずかった者は日々共にいてくださるインマヌエルの神様に、正しく赦され、新しい命をいただきます。神様がなさろうとしておられることに、自分の置かれたところで使命をあたえてくださっています。家庭でも自分の立場を用いて役立つことがたくさんあります。社会生活をする現場でも、つまり近隣や職場や学校でも、正しさとやさしさを両立させて、自らの苦しみを承知で労を惜しまずに人々と一緒に幸せをつくっていく生きがいがあります。教会でも進んで互いに赦しあい、愛し合って、神様の福音の前進のためのみわざに、共に参与していきます。ヨセフはみ使いに、ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい、と語られました。神様はあなたを名前を呼んで、あなたの人となりや尊厳を尊重して、あなた以外の誰でもないあなたにみ言葉を通してお語りくださいます。あなたの罪は赦されました、そしてあなたには具体的な使命があります、と今朝もお語りくださいます。人の顔、自分の失敗、将来のことなど、一切恐れなくて、共にいて語り続けてくださる神様のみこえを喜んで歩むのです。

クリスマスを迎えようとしている今、ヨセフに語られたみ言葉をこの一週間心にとめつつ、あなたのためにお生まれくださった救い主イエス様を信頼して、人の役にたって歩んでまいりましょう。

「マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」マタイによる福音書 1 章 21 節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と意思をキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

讃美歌 284 番 献金 献金感謝の祈り

- 1 主の尊きみ言葉は わが生命(いのち)の基いなり 頼る我は安けしや 世に又なきみ言葉よ
- 2 ただ我のみ汝(な)が神ぞ 恐れず行け ためらわで
力強き我が腕(かいな) なれに沿いて離れじな
- 3 悩みの火は燃え上がり 嘆き河 溢るとも 恵みの手に縋りなば 常に勝ちて 余りあらん
- 4 老いの坂を登り行き 頭(かしら)の雪 積もるとも
変わらぬ我が愛におり 安けくあれ 我が民よ **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たさせたまえ。
みこころの天になるごとく地にもなされたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。
われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。
われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。
国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讃美歌 543 番

主イエスの恵みよ 父の愛よ 御霊の力よ ああみ栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏